

平成30年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月13日

上場会社名 レカム株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3323 URL http://www.recomm.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)伊藤 秀博
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長CFO (氏名)砥綿 正博 (TEL)03(4405)4566
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第3四半期の連結業績(平成29年10月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第3四半期	4,964	35.0	269	94.0	256	92.3	127	44.1
29年9月期第3四半期	3,677	17.7	138	—	133	—	88	—

(注) 包括利益 30年9月期第3四半期 185百万円(54.0%) 29年9月期第3四半期 120百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第3四半期	2.01	2.00
29年9月期第3四半期	1.52	1.51

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年9月期第3四半期	5,525	2,976	50.1
29年9月期	3,161	1,758	51.8

(参考) 自己資本 30年9月期第3四半期 2,769百万円 29年9月期 1,638百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	0.00	—	1.00	1.00
30年9月期	—	0.00	—	—	—
30年9月期(予想)	—	—	—	1.50	1.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年9月期の連結業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,700	49.8	700	139.5	670	158.9	340	142.2	5.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年9月期3Q	66,894,500株	29年9月期	60,116,900株
30年9月期3Q	13,000株	29年9月期	13,000株
30年9月期3Q	63,221,543株	29年9月期3Q	58,067,984株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	8
3. その他	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善がみられるなど、総じて緩やかな回復基調にあります。トランプ米政権が関税の引き上げ等の保護主義的な政策を打ち出したことによる貿易摩擦への警戒感が台頭しており、世界経済は先行き不透明な状況となっております。

当社の属する情報通信業界におきましては、情報通信機器のリース取扱高の前年割れが続いており、業界全体が厳しい状況にあります。ランサムウェアやサイバー攻撃への脅威から、セキュリティ関連への関心が高まっております。

こうしたなか、当社グループは、各事業を飛躍的に事業拡大させるために、2018年4月には情報通信機器や光回線、HP制作等を販売する株式会社R・S、及び株式会社G・Sコミュニケーションズ株式を取得しました。また、LED照明や業務用エアコン等の海外事業では、2018年2月に設立したレカムビジネスソリューションズマレーシア株式会社での販売を開始することができ、同年8月にレカムビジネスソリューションズミャンマー株式会社を開設するなど、積極的に事業展開を図っております。さらには、レカムビジネスソリューションズ(大連)株式有限公司においては7月に中国の新興企業向けのマーケットである新三板への株式上場の承認を受けることができました。

以上により、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高が前年同四半期と比べ35.0%増の4,964百万円となりました。営業利益は、情報通信事業においてはM&Aにより株式を取得しましたレカムIEパートナー株式会社、株式会社R・S、株式会社G・Sコミュニケーションズが利益貢献するとともに既存会社との事業シナジーを享受することができ、BPO事業においてはBPOセンターの業務効率化による収益改善、海外法人事業においては大幅な増収による収益拡大により、前年同四半期比94.0%増の269百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、3事業セグメントの利益が増加したこと等により前年同四半期比44.1%増の127百万円となりました。その結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益とも、過去最高益となりました。

※1 BPO(Business Process Outsourcing)の略称です。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 情報通信事業

直営店チャンネルにおいては、顧客データシステムを有効活用し、顧客との関係性強化を推進するとともに、新規顧客の獲得にも取り組みました。商品としてはデジタル複合機で独自の販売プランによる拡販と当社独自のインターネット光回線サービス「Ret'sひかり」、UTM(※2)やサーバー等のセキュリティ商材の販売を強化しました。この結果、同チャンネルの売上高は前年同四半期とほぼ同額の1,267百万円となりました。

加盟店チャンネルにおいては、特にセキュリティ商材等の強化商材の営業支援に取り組みました。この結果、同チャンネルの売上高は前年同四半期と比べ8.9%減の1,320百万円となりました。

代理店チャンネルにおいては、採算性重視のための代理店の再編成を進め、代理店に対する販売支援策を打ち出しましたが、売上高は前年同四半期と比べ21.9%減の109百万円となりました。

グループ会社においては、M&AによりレカムIEパートナー株式会社や株式会社R・S、株式会社G・Sコミュニケーションズの売上が新たに加わったことやヴィーナステックジャパン株式会社の売上が伸長したこと等により、同売上高は前年同四半期比389.0%増の1,342百万円となりました。

これらの結果、事業全体の売上高は、前年同四半期比29.0%増の4,040百万円となりました。セグメント利益は、各社の収益改善及びM&Aにより新たに加わった子会社の利益が加わったこと等により、前年同四半期比111.9%増の133百万円となりました。

※2 UTM(Unified Threat Management: 統合脅威管理)の略称です。

② BPO事業

BPO事業では、レカムBPO株式会社において既存顧客からの業務の追加受注獲得及び新規顧客の開拓に取り組んでまいりました。BPOセンターでは、業務の効率化と業務品質の向上に取り組み、各センターの特質に合った業務オペレーション体制を構築してまいりました。

これらの結果、売上高は243百万円(前年同四半期比2.8%減)となりました。セグメント利益は、各BPOセンターの業務の効率化に取り組んだこと等により、39百万円(前年同四半期比5.5%増)となりました。

③ 海外法人事業

海外法人事業は、日系企業へのLED照明や業務用エアコン等のエコ商材等の拡販に向けて、2017年8月より営業を開始したベトナム、及び中国3拠点での拡販に取り組んでまいりました。

これらの結果、売上高は680百万円（前年同期比131.2%増）となりました。セグメント利益は、増収効果により、人員増強やマレーシアの拠点開設等に伴う先行投資費用を吸収し97百万円（前年同期比151.1%増）と大幅に増加しました。

(セグメント別売上高)

セグメントの名称		販売高(千円)
情報通信事業	直営店	1,267,465
	F C加盟店	1,320,849
	グループ会社	1,342,415
	代理店	109,277
	計	4,040,005
B P O事業		243,501
海外法人事業		680,527
合計		4,964,034

(注) 上記の金額に消費税等は、含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末より2,363百万円増加し、5,525百万円となりました。これは主に、増収により受取手形及び売掛金が511百万円増加したことと、M&Aを実施したことにより、のれんが1,340百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末より1,144百万円増加し、2,548百万円となりました。これは、主に買掛金が85百万円増加したことと、M&Aで取得したレカムIEパートナー株式会社に係る運転資金の借入を実施したことにより短期借入金が200百万円、長期借入金が683百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末より1,218百万円増加し、2,976百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益127百万円の計上と、新株の発行等により資本金が535百万円、及び資本剰余金が544百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年9月期通期の業績予想につきましては、平成30年2月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,304,017	1,402,895
受取手形及び売掛金	768,531	1,280,502
有価証券	101,541	118,830
商品	233,148	312,319
繰延税金資産	37,305	33,439
その他	146,068	239,554
貸倒引当金	△8,904	△9,389
流動資産合計	2,581,708	3,378,152
固定資産		
有形固定資産	46,939	95,330
無形固定資産		
のれん	245,359	1,585,785
その他	24,871	23,567
無形固定資産合計	270,230	1,609,353
投資その他の資産		
繰延税金資産	71,786	75,564
その他	201,511	377,813
貸倒引当金	△13,900	△13,503
投資その他の資産合計	259,397	439,874
固定資産合計	576,568	2,144,558
繰延資産	3,708	2,405
資産合計	3,161,984	5,525,116
負債の部		
流動負債		
買掛金	570,913	656,661
短期借入金	200,000	400,927
1年内返済予定の長期借入金	36,737	137,340
未払法人税等	89,083	40,192
受注損失引当金	42,388	54,710
その他の引当金	21,092	12,067
その他	265,005	395,602
流動負債合計	1,225,220	1,697,500
固定負債		
長期借入金	117,507	700,633
退職給付に係る負債	2,093	-
その他	58,571	150,191
固定負債合計	178,171	850,824
負債合計	1,403,392	2,548,325
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,011,895	1,547,163
資本剰余金	956,236	1,501,050
利益剰余金	△337,153	△280,103
自己株式	△845	△845
株主資本合計	1,630,133	2,767,265
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,298	1,917
その他の包括利益累計額合計	8,298	1,917
新株予約権	28,038	38,648
非支配株主持分	92,121	168,959
純資産合計	1,758,591	2,976,791
負債純資産合計	3,161,984	5,525,116

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
売上高	3,677,232	4,964,034
売上原価	2,614,413	3,341,724
売上総利益	1,062,819	1,622,310
販売費及び一般管理費	923,903	1,352,788
営業利益	138,916	269,521
営業外収益		
受取利息	2,157	2,326
補助金収入	2,458	1,216
その他	2,851	5,814
営業外収益合計	7,467	9,357
営業外費用		
支払利息	2,540	6,199
為替差損	4,120	676
株式交付費	1,967	-
上場関連費用	-	9,986
その他	4,578	5,891
営業外費用合計	13,207	22,754
経常利益	133,176	256,125
特別損失		
固定資産売却損	218	376
減損損失	-	2,868
訴訟関連損失	3,334	-
特別損失合計	3,553	3,244
税金等調整前四半期純利益	129,623	252,880
法人税、住民税及び事業税	24,090	60,964
法人税等調整額	41	1,760
法人税等合計	24,132	62,724
四半期純利益	105,491	190,155
非支配株主に帰属する四半期純利益	17,336	63,120
親会社株主に帰属する四半期純利益	88,155	127,035

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	105,491	190,155
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	14,991	△4,662
その他の包括利益合計	14,991	△4,662
四半期包括利益	120,482	185,493
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	99,092	122,590
非支配株主に係る四半期包括利益	21,389	62,903

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、株式会社光通信より新株予約権の行使による払込があったこと、当社役員及びマッコーリー・バンク・リミテッドへの第三者割当増資による払込があったこと等により、当第3四半期連結累計期間末において資本金が1,547,163千円、資本剰余金が1,501,050千円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第2四半期連結会計期間より、株式の取得によりレカムIEパートナー株式会社を連結の範囲に含めております。

また当第3四半期連結会計期間より、株式の取得により株式会社R・S、及び株式会社GSコミュニケーションズを連結の範囲に含めております。

また第2四半期連結会計期間にRECOMM BUSINESS SOLUTIONS (MALAYSIA) SDN. BHD. を設立し、連結の範囲に含めております。

第2四半期連結会計期間にレカムBPOソリューションズ株式会社はレカムジャパン株式会社に吸収合併された為、連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書計上 額(注) 2
	情報通信事業	BPO事業	海外法人事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,132,374	250,481	294,377	3,677,232	—	3,677,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	20,549	93,202	—	113,752	△113,752	—
計	3,152,923	343,683	294,377	3,790,984	△113,752	3,677,232
セグメント利益	62,787	37,038	38,811	138,637	278	138,916

(注) 1. セグメント間内部売上振替高△113,752千円、棚卸資産の調整額278千円を記載しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書計上 額(注) 2
	情報通信事業	BPO事業	海外法人事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,040,005	243,501	680,527	4,964,034	—	4,964,034
セグメント間の内部売上高又は振替高	103,937	109,393	—	213,330	△213,330	—
計	4,143,942	352,894	680,527	5,177,365	△213,330	4,964,034
セグメント利益	133,019	39,057	97,445	269,521	—	269,521

(注) 1. セグメント間内部売上振替高△213,330千円を記載しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「情報通信事業」セグメントにおいて、株式会社R・S、及び株式会社G Sコミュニケーションズの全株式を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの計上額は、当第3四半期連結累計期間において443,075千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

該当事項はありません。